

F 市原市内の地名の由来

私達が住み、普段何気なく使っている地名にも調べてみると、隠された歴史やロマンがあります。

また、地名の由来には遙か昔に大海原を渡ってきたポリネシア人の言語「マオリ語」が多く使われており、それに漢字を当てはめた地名が見られます。

先人たちは、空に浮かぶ星を目標に大海原を島伝いに来たのであろうと思いますが、大変な勇気と冒険心には驚きを感じます。由来の中で、古代の地名で日本語では意味不明のものが多くありますが、これらの語源はマオリ語の表現を日本語転訛されたものと思います。（「 」の説明の箇所）

今回は、私達の故郷、市原市の地名の由来を調べてみました。なお、調査に使った資料は、インターネットより検索して利用しています。なお、近年に統廃合や宅地造成により着けられた地名については掲載を省きます。

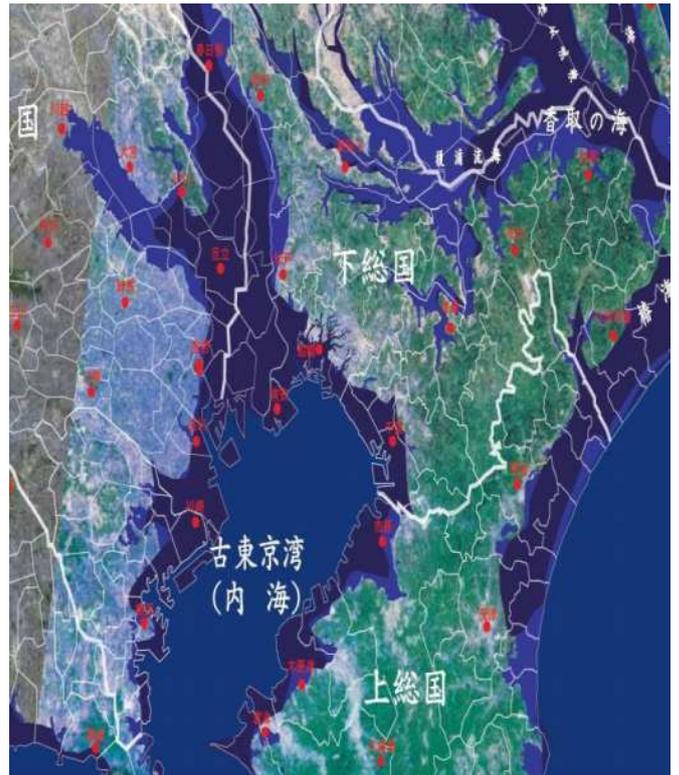
市原市内の地名の由来を述べる前に、千葉県由来を調べて見ました。

千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は、古くは総（ふさ）と言い、7世紀後半の令制国の建置に伴って上総（かずさ）国と下総（しもうさ）国が成立し、その後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれて安房国が成立した。

「総」（ふさ）の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命が安房国から斎部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、好い麻が生えたので、総（麻）の国とした説や、「風土記逸分」によると、「総」とは木の枝をいい、昔この国に大きな数百丈のクスノキが生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を上総と言い、下の枝を下総と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転で「高い所」の意とする説などがある。」この「ふさ」は、マオリ語の「フ・タ」で、浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷が見え、現我孫子市東端の布佐の地に比定されます。

上総国には、市原・海上・畔蒜（あひる）・望陀（ほうた）・周准（すえ）・天羽（あまは）・夷隅（いしみ）・埴生（はにゅう）・長柄・山辺・武射（むさ）の11郡があり、下総国には葛飾（かどしか）・千葉・印旛・埴生・匝瑳（そうさ）・海上・香取・相馬（そうま）・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）・安房・朝夷（あさひな）長狭の4郡で国づくりがされていた。そして「和名抄」によると、市原は（伊知波良）と書き、中世には市西郡と市東郡にわかれ、山田郡も郡域内にあったと思われる。国府の所在郡でもあり、海部（あま）郷・市原郷・湿津（うるつ）郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期にはこのほかに、海北郡、佐是郡など、旧海上郡域も併合された。参考（郷とは行政区で、村は集落の意味）



この写真の作成者 不明な作成者は CC BY-SA のライ

上総国市原郡6郷

1・海部郷（あまのこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

2・市原郷（いちはらこう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または、「稜威」（いつ）の転訛で美称か。襟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

3・湿津郷（うるつこう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名は「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な湧泉があることから命名された地名と思われる。

4・江田郷（えだこう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は、「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付近や市原市江子田などを含む養老川中上流右岸の広大な地域を郷域としている。

5・菊麻郷（くくまこう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高山寺本・東急本ともに「久々万」。市原市菊間付近に比定されている。地名は「くぐまった（包み込まれたような）地」の意味。

6・山田郷（やまだこう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。地名は「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転訛で、「山のあるところ」とも考えられる。

これまでは千葉県の由来と上総国、下総国などの出来た由来などを説明してきましたが、これ以降は市原市内の地名の由来を記してゆきます。

それに合わせて地区内に在る寺院と神社を紹介します。

あいうえお順

（あ行）

● 相川（あいかわ）【社寺仏閣 石神社・普門院（真言宗豊山派）】

江戸期は相川村。由来は「あい（間）・かわ（川）」で養老川の曲流の東西を挟まれた地勢による。

● 青柳（あおやぎ）【社寺仏閣 若宮八幡神社・稲荷神社・船霊神社・八雲神社・

養福寺・明王院（真言宗智山派）・正福寺・光明寺（新義真言宗）】

南北朝期は青柳郷、江戸期は青柳村。南部は明治7年（1874年）以前は天王河原村と称し、もと白塚村の一部。青柳村から江戸に出荷したバカ貝は、のちに当地の地名にちなみ「アオヤギ」の美称で呼ばれた。地名の由来は、「あお（河川の土砂の堆積地・やぎ（転石地）」で、石が交じった土砂堆積地を指したものの。

● 安久谷（あくや）【社寺仏閣 捨貳天神社・安楽寺（天台宗）】

江戸期は安久谷村。悉谷とも書く。もとは内田村の一部で、元禄年間（1688年～1704年）以前に分村し、江戸期は内田を冠称。

地名の由来は、「あし（崖）・や（谷）」の転訛で、崖のある傾斜地と言う意味。

● 浅井小向（あさいこむかい）【諏訪神社・日吉神社・真蔵院（真言宗豊山派）】

戦国期は浅井村、江戸期は浅井小向村。

地名の由来は、「あさ「崖」・い（川）・こ（接続語）・むけ（剥）」の転訛で、養老川の曲流武に位置し、川流により土地が削られることを指したものの。

● 安須（あず）【日枝神社・正壽院（真言宗豊山派）】

江戸期は安須村。地名の由来は、過去に地滑りなどの自然災害があった事を意味する。

● 朝生原（あそうばら）【山神社・八坂神社・宝林寺（曹洞宗）】

麻生原とも書く。江戸期は麻生原村。久留里城主・里見義堯の娘・種姫が夫であった正木久太郎が討死となったことから、当地の法林寺に入り後生を弔ったといい、付近に天（尼）津前・尼住居などの地名が残っている。

地名の由来は、「あさ（崖崩れ・湿地）う・（～なったところ）・はら（原）」で、崩れるような崖のある山間の平坦地と言う意味。

● 姉崎（あねさき）【姉崎神社・保食神社・稻荷神社・神明神社・菅原神社・天照大神・最頂寺（浄土宗）長遠寺・妙軽寺・宝蔵寺・円能寺（顕本法華宗）・弘教寺【浄土宗本願寺派】】

姉ヶ崎ともいう。南北朝期は姉崎保、江戸期は姉ヶ崎村と呼ばれた。

地名の由来は、志那戸弁命（姉崎神社祭神）と志那都比古命（島穴神社祭神）の姉弟神（一説には夫婦神）がおり、姉神が先に当地に来て弟神を待ったので姉前（あねさき）と呼んだという伝説がある。

「はに「埴」・さき（山の先端）」の転訛で、粘土質丘陵の先と言う意味。

● 海士有木（あまありき）【日枝神社・八坂神社・大宮神社・長谷寺（新義真言宗）泰安寺（顕本保家法華経）】

明治7年（1874年）に起立された。もとは、海士村と有木村。海士村海辺・海とも書く。地名は、古代海士族と関係があるとも。県内で「あま」と付く地形は水辺（川や海）の側の崩壊した丘陵または山となっていることから、「あば（奪）・見（似ず）」の転訛で、水辺の地崩れ地と言う意味。

有木（蟻木）の地名は戦国期からあり、戦国末期二階堂実綱が拠った蟻木城址がある。

地名の由来は、「あらき（新墾）」の転訛。一説によると、当地に在る長谷寺の御本尊を作った稀代の霊木があるという意味で「有木」にしたともいう。

● 天羽田（あもだ）【安誠寺（顕本法華経）】

江戸期は、天羽田新田。江戸初期には姉ヶ崎村の枝郷であったと推定される。

地名の由来で、「あも」は「あま」の転訛で、水辺の側の崩壊した丘陵又は山となっている。

羽は「埴」の当て字で「羽田は粘土質の田」の意味。

● 新井（あらい）【面足神社・安楽寺（天台宗）】

江戸期は、新井村。名主を世襲した新井氏が当村の草分けと言われている。

地名の由来は、「あら（荒）・い（川）」で、洪水の多い川と言う意味かと言われている。

● 新生（あらおい）【山紙神社・祐巖寺（曹洞宗）】

江戸期は、新生村。里伝によると、文禄の頃（1592年～1596年）新生郷と称し、のちに糸久・権現堂・十五沢を分村。

地名の由来は、「あら（荒）・う（～になっている場所）」の転訛で、新たな土砂崩れで崩壊地になった所と言う意味。

- **新巻** (あらまき)【熊野神社・正福寺(曹洞宗)】
荒巻とも書く。江戸期は荒巻村。
地名の由来は、「あら(荒)・まき(曲)」で、山崩れにより川の流路が変わり曲流するようになった事を指す。
- **飯沼** (いいぬま)【春日神社・龍昌寺(曹洞宗)】
江戸期は飯沼村。中世の入沼郷にあたる。古代には、稲庭と呼ばれた。
地名の由来は、稲庭は、「いな(砂)、にわ(場)」で砂地と言う意味。現代の飯沼は「うえ(上)・ぬま(沼)」の転訛で、高い所の沼沢地と言う意味。
- **池和田** (いけわだ)【大宮神社・光明寺(天台宗)】
鎌倉期は、池和田村。戦国期に里見氏の支城の池和田城が築城された。
地名の由来は、和田太郎正治が当地で勢力をふるい、大きな池があった事から、「池の和田」と呼ばれたことから名づけられたという説。
- **石神** (いしがみ)【羽雄神社】
江戸期は、石神村。宝暦2年(1752年)麻生原村から分村して。
地名の由来は、石棒を神として祀ったところにちなむ。
- **石川** (いしかわ)【白幡神社・八坂神社・福園寺(天台宗)・竜溪寺(曹洞宗)】
江戸期は、石川村。もとは、内田村の一部で、元禄年間(1688年～1704年)以前に分村した。
地名の由来は、石の多い川と言う意味。
- **石塚** (いしづか)【白鳥神社】
江戸期は石塚村。
地名の由来は、役の行人が渡来し法華経を小石に書いて塚に埋め、そこに松を植えたことにちなむとする説がある。「いし(石)・つか(高くなっている所)」で、石の多い山と言う意味。
- **磯ヶ谷** (いそがや)【八幡神社】
磯谷とも書く。江戸期は磯ヶ谷村。里伝によると、白鳳2年(674年)は磯部の里としようしていた。
地名の由来は、「いそ(岩が多く露出している所)・が(接続詞)・や(谷)」で岩が多く露出した傾斜地と言う意味。
- **飯給** (いたぶ)【熊野神社・白山神社・運泉寺(真言宗豊山派)真高寺(曹洞宗)】
江戸期は飯給村。白山神社は大友皇子を祀る。
地名の由来は、天地天皇の皇子・大友皇子が逃亡してきた際に、村人が匿い食べ物差し上げた。皇子が去る時に、お礼に「飯給」と言う地名を授かったという説と、同じ内容で日本武尊だとする説や「イビタ(木蓮子)」の転訛で、常緑低木のある所を指すという説がある。
「いた(痛)・ふ(生)」で、崩壊地と言う意味
- **市場** (いちば)【八坂神社】
江戸期は市場村。もとは、内田村の一部で元禄年間(1688年～1704年)以前に分村し江戸期は内田村を冠称。
地名の由来は、かつて当地で市場が開かれていたことに由来する。
- **市原** (いちばら)【八幡神社・阿須波神社 光善寺】
平安期は市原郡、江戸期は市原村。
地名の由来は、いちいの繁茂する原野の意味とする説もある。「いつ(巖)・はら(原)」の転訛で、養老川により浸食された急崖を指したのか。また、一日市場があったからという説もある。

マリオ語で「イ・チ・パ・ラ」 I—TIPA—RA で、「広く開いた場所が違った地域のそば」と転訛する。

● 糸久 (いとひさ)【諏訪神社・円乗院(真言宗豊山派)】

鎌倉期と江戸期では一久村。文禄年間に(1592年～1596年)以降新生村から分村。

地名の由来は、「いた(痛)・く(処)」の転訛で、土砂崩れ、又は養老川の氾濫で被害を受けた土地と言う意味。

● 犬成 (いぬなり)【犬成神社・安立寺(日蓮宗)】

江戸期は犬成村。

地名の由来は、寺院の境内を意味する「院内」の転訛とする説があるが、狭小な地形に由来するとも言う。そのほか神皇と称した平将門が行幸したことから「院内(いんなり)」と称され、それが転訛して犬成となったという説もある。「いぬ(崩壊地形)・なる(緩傾斜地)」の転訛で、崩壊した緩傾斜地を指したものの。

● 今津朝山 (いまづあさやま)【鷲神社・春日神社・延命寺・能蔵寺(真言宗豊山派)
金蔵院(真言宗豊山派)】

中世には浅山村があり、古くは今津と朝山に分けていたと考えられる。江戸期は今津朝山村。

地名の由来は「今津」は「古津」の対義語で港を示す言葉。「朝山」がもと「麻山」で鷲神社縁起によると、天富命が天日鷲命の子孫を連れてこの地に下りて麻を植えて賜ったところ、麻の出来が良かったので、この地域を「綏の浅山」と呼び当地を麻山村と名付けたという。「あず(崩)・やま(山)」の転訛で、養老川の氾濫で運ばれてきた土砂や山崩れなどで出来た土地と言う意味か。

● 今富 (いまだみ)【八幡神社・円満寺・正光院(真言宗豊山派)・祥雲寺(曹洞宗)
秀善寺(曹洞宗)】

上海上国造との関係が推定される今富庵寺跡がある。鎌倉期は、今富保、江戸期は今富村。今留村とも書く。

地名の由来は、「いま(新しい)・とみ(富み)」で豊かに成る事を願って命名した端祥地名。

● 不入斗 (いりやまず)【小鷹神社・熊野神社・薬王院・西光院(新義真言宗)】

室町期は不入斗郷、江戸期は不入斗村。

地名の由来は、寺社領などで貢納を命じられた不入権をもつ田地のことで、荘園地名の一種。

● 岩 (いわ) 【長善寺(天台宗)】

江戸期は岩村。藪村から分村したとも伝えられるが文禄3年(1594年)にはすでに1村になっていた。

地名の由来は、域内に字岩前・岩ノ谷があることから、岩が多い土地であったことにちなむ。または「い(接頭語)・わ(廻)」で山の周りの土地を示したか。

● 岩崎 (いわさき)【巖島神社・稻荷神社】

江戸期は岩崎新田、里伝によると貞享以前(1684年～1688年)は石崎と呼ばれていた。

当初は五井村の属地であったが、享保12年(1727年)江戸の下村清兵衛により開発された清兵衛新田とよばれた。のちに岩崎新田と改称。地名の由来は、石の多い岬と言う意味。

● 岩野見 (いわのみ)【岩野見社・自性院(真言宗豊山派)】

江戸期は岩の野見村。江戸初期に五井村から分村した。

地名の由来は、「いわ(岩)の(接続詞)・み(水)」で石の多い湿地と言う意味。

● 上原 (うへはら)【春日神社・光徳院(真言宗智山派)】

江戸期は上原村。

地名の由来は、高い所にある広い土地を指したものの。

● 牛久 (うしく)【丸山神社・三嶋神社・円明院(真言宗豊山派)】

戦国期には牛久の地名があった。江戸期は牛久村。宿場町で牛久町とも称した。

地名の由来は、「うし（憂し）・く（処）」で豪雨時に川が氾濫するような不安定な土地をさしたものの。

- 馬立（うまたて）【根元神社・天津神社・大宮神社・熊野神社・根元寺（天台宗）
佛眼寺（真言宗豊山派）・金剛寺・竜源寺（曹洞宗）】

江戸期は馬立て村。

地名の由来は、馬の競りがあった事に由来するという説と、馬の集結地があった事に由来するという説がある。「うば（崩壊地形）・たて（南北を指す）」の転訛で、崖崩れした養老川が南北に流れる地と言う意味。

- 潤井戸（うるいど）【白幡神社・光福寺（日蓮宗）・泰行寺（顕本法華宗）】

江戸期は潤井戸村。【和名抄】の湿津郷の遺称と考えられている。

地名の由来は、「うるい（湿）・つ（津）」で湧泉地を指すもので「つ」が「と（処）」に転訛したと考えられる。

当地の南の水神谷から豊かな清澄な地下水が湧き出す事に由来する。

- 江子田（えこた）【大宮神社・】

江戸期は江子田村。もとは内田村の一部で元禄年間（1688年～1704年）に分村した。但し、江戸期を通じて内田村としても機能し享保年間以降（1716年～1736年）は下内田村の内とも見られる。

地名の由来は、「えご（川の片隅）・他（処）」で、養老川の側の土地と言う意味。

- 大桶（おおけ）【日枝神社・甘露寺（天台宗）】

江戸期は大桶村。

地名の由来は、「おお（美称）・ほけ（山崖）」の転訛で、急斜面の山が崩壊している地と言う意味。

- 大久保（おおくぼ）【浅間神社】

江戸期は大久保村。

地名の由来は、「おお（美称）・くぼ（窪）」で山間の窪地を指したものの。

- 大蔵（おおくら）【大蔵神社】

江戸期は大蔵村。金沢村枝郷。

地名の由来は、「おお（美称）・くら（割）」で谷地形と言う意味。

- 大作（おおさく）【大作神社・法行寺（日蓮宗）】

江戸期は大作村。

地名の由来は、「おお（美称）・さく（狭処）」で狭い谷を指したものの。

- 大坪（おおつぼ）【諏訪神社・福栄寺（真言宗豊山派）・竜興寺（曹洞宗）】

江戸期は大坪村。

地名の由来は、「おお（美称）・つぼ（壺）」で凹んだ土地を指したものの。

- 大戸（おおと）【熊野神社】

江戸期は大戸村。

地名の由来は、峡谷の深い山狭への入り口につけられたもの。

- 大厩（おおまや）【駒形神社・延命寺（新義真言宗）】

大馬屋とも書く。江戸期は大馬屋村。

地名の由来は、「おお（美称）・ま（崖）・や（谷）」の転訛で、崖のある傾斜地と言う意味。

- 大和田（おおわだ）【光蔵寺（真言宗豊山派）】

江戸期は大和田村。

地名の由来は、「おお（美称）・わだ（輪処）」で台地が弧を描くように低地に連なっている地勢を指したものの。

- 荻作 (おぎさく)【荻作神社・満光寺(新義真言宗)】
江戸期は荻作村。荻野作村ともいう。
地名の由来は、「うぎ(崩壊地形)・さく(狭処)」の転訛で、崩れた狭い土地という意味。
- 奥野 (おくの)【圓光寺・龍蔵寺(天台宗)】
江戸期は奥野村。もとは内田村の一部で、元禄年間以前(1688年~1704年)に分村した。
地名の由来は、「おく(奥)・の(野)」谷の奥の山麓の傾斜地と言う意味。
- 押沼 (おしぬま)【押沼神社】
古くは駕沼と書いていた。江戸期は駕沼村。志藤(市東郡の意味)冠称していた時期もあり、志藤七ヶ郷のひとつ。
地名の由来は、水田の大部分がかつては沼であり、またおしどりが遊泳し道行く人を楽しませていた事に由来するという。「おし(決壊)・ぬま(湿地)で地滑り又は洪水のあった湿地という意味。
- 小田部 (おだっぺ)【熊野神社・宝泉寺(新義真言宗)】
江戸期は小田部村。古くは小田辺と書き、田の辺に集落が所在したことに由来する。
「おだ(砂地)・べ(辺)」の転訛で砂地の周辺という意味。
- 折津 (おりつ)【大山紙神社・熊野神社】
江戸期は折津村。明治7年に根向村・茅原村を合併。;
地名の由来は、「おり(降)・づ(処)」で山崩れがあったことを指したもの。

【か行】

- 海保 (かいほ)【海保神社・遍照院(真言宗(豊山派)・森巖寺(曹洞宗)】
江戸期は海保村。当地は古代海上郡域に属したが、古代末期同郡が南北に分かれ海北・海南両郡が成立したと制定され、地名の海保は海北の遺称と考えられる。「海上」とは海の浴びる畔(あぜ)という意味。
- 柿木台 (かきのきだい)【大山紙神社】
江戸期は柿木台村。
地名の由来は、「かき(欠き)・ぬき(抜)・だい(台)」の転訛で、崩壊した土地が緩傾斜地と言う意味。
- 風戸 (かざと)【熊野神社・日光寺(真言宗智山派)】
戦国期は風戸郷。江戸期は風戸村。里伝によると、この地の寺に源頼朝が参詣した際、それまで強く吹いていた風が戸を立てたかのように静かになったことから「風戸」の地名になったという。「かじ(掻)と(処)」の転訛で崩壊地と言う意味。
- 神代 (かじろ)【神代神社・神光院(真言宗豊山派)】
梶路とも書く。戦国期は梶路郷、江戸期は神代村。里伝によると、村は古来の神地で神代の神が鎮座した当初は23戸だけであったという。貞観10年(868年)に従五位以下を授けられた神代神社があり、地域の中心にこの古社が座していることから、地名を当神社にちなむとおもわれる。「神城」は「かくみ・こうしろ」とも読み、神田と同義と言われている。古来は、「かわらい」と読み祝詞では「かみやらい」と読れる。「かじ(掻)・しろ(湿地)」の転訛で、過去の土石流の堆積地や崩壊地のある湿地と言う意味。
- 柏原 (かしわばら)【柏原神社・持宝院(真言宗豊山派)】
江戸期は柏原村。もと白塚の枝村。字後原にある馬塚は椎津殿(白幡六郎)が戦死した時、その乗馬を埋めた所であるという。
地名の由来は、「かしわ(傾)・はら(原)」で緩傾斜地の広い平坦地という意味。
- 片又木 (かたまたぎ)【十二社神社・法蓮寺(新義真言宗)】

江戸期は片又木村。慶応4年(1868年)の戊辰戦争の祭には当村は幕軍の真里谷方面への敗走にあたり、字日和ヶ谷の山中から幕軍敗走兵の打ち捨てたものとおもわれる雨覆付小長持ち・毛段氈・菰包などが発見された。

地名の由来は、「かた(肩)・また(岐)・き(処)」で台地の端の谷が二つに分かれている地という意味。

● 勝間 (かつま)【日枝神社・龍性院(新義真言宗)】

勝馬とも書く。鎌倉期は勝間郷、江戸期は勝間村。足利貞氏は当郷をその被官人・倉持新左衛門尉家行に安堵し、倉持氏相伝の所領だった。

地名の由来は、平将門に敵対する人がこの地にて、将門に勝ようと願いを込めて「勝将(かつまさ)」と付けたのが「勝馬(かつま)となり「勝間」となったという。「かつ(崩壊地形)・ま(場所)」で崖のある地という意味。

● 金沢 (かなざわ)【白山神社】

江戸期は金沢村。大蔵村を分村。草分けとされる家が4軒あり、そのうち箕箸家は名主を世襲したと伝える。

地名の由来は、「かね(崩壊地形)・さわ(沢)」で台地が崩壊したところにある小溪谷という意味。

● 上高根・中高根 (かみたかね・なかたかね)

【八坂神社・糺神社・貴船神社・白山神社・熊野神社・白幡神社・鶴峰八幡宮・
實壽院・稱禮寺・宝性寺(真言宗智山派)・常住寺(真言宗豊山派)】

江戸期は上高根村・中高根村。カ士・小柳常吉は文化14年(1817年)当村で生まれた。

地名の由来は、高い山の麓という意味。

● 加茂 (かも)【加茂神社・長榮寺(日蓮宗)】

江戸期は加茂村。

地名の由来は、加茂神社の所在にちなむもの。「かも(川岸浸食)」は河川氾濫の際に流河道となる土地やその恐れのある土をさすもの。

● 栢橋 (かやはし)【御霊神社・医養寺(真言宗智山派)・林泉寺(曹洞宗)】

萱橋とも書く。江戸期は萱橋村、茅橋・栢橋とも書く。染谷・桐谷・関根・佐久間・鈴木の5氏、妙見・熊野神社・山の神・豊稻荷・お日の宮・庚申・御霊神社の7社を合わせて栢橋の五族七社と呼ぶが、これは村の草分けと関係すると思われる。

地名の由来は、昔ある豪族が当地を通った時に川に橋がなかったので、萱で堰止めて渡ったことに由来し、後に「萱」が「栢」に変化したものという。「かや(崩壊地形)・はし(端)」で過去に地滑りや地崩れを起こした崩壊地の端という意味。

● 川在 (かわざい)【大宮神社・西福寺(曹洞宗)】

江戸期は川在村。

地名の由来は、「かわ(川)・あら(荒)」の変化したもので、川沿いの崖地という意味。

● 神埼 (かんだき)【稻荷神社・真浄寺(日蓮宗)】

江戸期は神埼村。

地名の由来は、「かみ(噛み)・さき(岬)」で崩壊した山の先端をさしたもの。

● 菊間 (きくま)【八幡神社・福寿院・戒誓寺(真言宗豊山派)・千光院(新義真言宗)】

戦国期は菊間之郷、江戸期は菊間村。菊麻国造(くくまのくに)との関連が推定される菊間廃寺跡がある。

地名の由来は、菊麻国(くくまのくに)にちなむ。「くぐ(屈)・ま(間)」で村田川と丘陵に挟まれた屈んだような土地を指したものか。または、丘陵の内側の低湿地で降雨時に水がたまりやすい土地の意味。

● 喜多 (きた)【喜多神社・壽福寺(顯本法華宗)】

北とも書く。江戸期は喜多村。

地名の由来は、もとは犬成村の枝郷であった事から、親村から見て北にあるという意味。

● 吉沢 (きちさわ)【国常立神社・鳳来寺(曹洞宗)】

江戸期は吉沢村。

地名の由来は、「きちさわ」←「よしさわ」←「あしさわ」と変化したと考えられ、「あし(崖・崩れ地)・さわ(沢)」で崖地の沢という意味。

● 君塚 (きみづか)【白幡神社・天満神社・稻荷神社・明光院(真言宗豊山派)】

江戸期は君塚村。

地名の由来は、治承4年(1180年)石橋山の戦いに敗れて房総半島に逃れた源頼朝が、当地で千葉介常胤の出迎えを受け大変喜んだので「喜見塚」と呼ばれるようになったとの伝承がある。また、当地は、はじめ武松郷と呼ばれ日本武尊を祀る「武の塚神社」があったが、頼朝が戦勝祈願して白旗を奉納して以後「白旗神社」となったという。地名や神社明に「塚」がつくのは、当地に古墳があることにちなむ。

「きわ(際)・み(辺)」の転訛で海沿いの地をさしたもの。

● 久々津 (くくつ)【諏訪神社・本照寺(顯本法華宗)】

江戸期は久々津村。久踏とも書いた。

地名の由来は、「くぐ(屈)・つ(津)」で丘陵の内側の低湿地で降雨時に水の溜まりやすい場所と言う意味。大厩の先に菊間があり、古代は「くくま」と称していたことから、当地と何らかの関係があったとも思われます。

● 草刈 (くさかり)【大宮神社・行光寺(日蓮宗)】

江戸期は草刈村。佐倉城主・千葉邦恒胤の小姓・桑田万五郎は配膳中に放尿したことから叱責を受けた。それを逆恨みし邦胤が寝ている時に刀で差して逃げたが、追手に菊間台で捕まり当地で誅されたという。

地名の由来は、「草(腐)・かり(崩壊地形)」で湿地で崩れ地という意味。

● 久保 (くぼ)【八坂神社・三社神社・神明神社・熊野神社・長光寺(天台宗)
光林寺(曹洞宗)】

江戸期は久保村。古くは当地を「くのう」と呼んだとも言い、地内に久能(くの)・久能向(このむかえ)の小字がある。

地名の由来は、「くぬ(くきぬぎの縮語)・う(～になっている所)」の転訛で、山崩れした所と言う意味。

● 五井 (ごい)【大宮神社・阿波須神社・熊野神社・八幡神社・稻荷神社・守永寺(浄土宗)
龍善院・善養院・千光寺・長福寺(真言宗豊山派)徳修寺(真言宗善通寺派)】

御井・後井・五位とも書く。江戸期は五井村。古くは武松と称したと伝えられる。慶応4年(1868年)の戊辰戦争の際には当地方は戦場となり、出津渡船場はその古戦場で中瀬橋近くの農道には「官軍塚」と呼ばれる墓がある。

地名の由来は、井水に関連すると考えられ、刀工宗近が、村を通りかかった名工正宗から良い刀を打つには良い水が必要であると教えられ、井戸を次々と掘り5つの井戸を掘ってついに名刀を鍛える事が出来たという伝説がある。「こい(臥い)」で養老川が運んだ土砂の堆積地を指したもの。

● 高坂 (こうさか)【五前神社・薬王寺(真言宗豊山派)】

江戸期は高坂村。

地名の由来は、「たき(急傾斜地)・さか(坂)」の転訛で傾斜地と言う意味を2回用いて意味を強調している。

- 小折 (こおり) **【大宮神社】**
江戸期は小折村。柳原村の枝郷。
地名の由来は、郡(こおり)の意味で、古代海上郡の郡衛所在地と推定される。または「ふる(古)・おり(降り)」の転訛で崖が降りる、すなわち地滑りが発生した事を伝えたとも考えられる。
- 郡本 (こおりもと) **【八幡神社・正光院・多聞寺(真言宗豊山派)】**
鎌倉期は郡本郷、江戸期は郡本村。天正19年(1591年)の書状に「氷本郷」と見え、との当時は根田村・藤井村・門前村が当村に含まれていたという。
地名の由来は、古代市原郡の郡衛所在地であったことに由来。情里制の遺称と推定される字一ノ町(いちのまち)・二泉松町(にのいずみちょう)・三ノ町(さんのまち)、中世の給田の遺称と推定される加茂給(かもきゅう)・於局給(おおつぼねきゅう)などの地名が残る。また字古甲(ふるこう)は古国府の名残とも思われ、上総国国府所在地であった可能性もある。
- 小草畑 (こくさばた) **【浅間神社・金光寺(曹洞宗)】**
江戸期は小草畑村。
地名の由来は、「ふる(古)・くさ(臭)・ばた(端)」の転訛で、川に囲まれた崖地を指したものの。
- 国本 (こくもと) **【浅間神社・金蔵院(真言宗豊山派)】**
江戸期は国本村。
地名の由来は、「くぬ(くきぬきの縮語)・もと(麓)」の変化したもので、山頂崩壊地の麓と言う意味。
- 古敷谷 (こしきや) **【八坂神社・天津神社・浅間神社・熊野神社・長楽寺(曹洞宗)】**
江戸期は古敷谷村。 **西連寺(天台宗)**
地名の由来は、「こいき(浸食地)・や(谷)」で浸食されできた谷と言う意味。
- 五所 (ごしょ) **【若宮八幡神社・満蔵寺(真言宗豊山派)】**
御所とも書く。江戸期は五所村。八幡村から分村して成立。
地名の由来は、戦国期に足利義明(八幡公方、のち小弓公方)の御所(八幡御所)が置かれたことにちなむ。御所跡は金杉川下流北岸の今井家付近と推定されている。「こじ(抉じ)・う(~になっている所)」の転訛で、浸食されている地と言う意味。
- 古都辺 (こつべ) **【古都辺神社・行福寺(日蓮宗)】**
江戸期は古都辺村。
地名の由来は、平将門が大字奈良の地に居館し大和の南部に擬して当地を奈良と称した。自身は相馬に移った後も妃や妾を住まわせていたので、都の長残り、古い都の付近にあるという意味でつけられたという。「きつ(くき)・べ(辺)」の転訛で山が崩れた地の周辺と言う意味。
- 駒込 (こまごめ) **【神明神社】**
江戸期は駒込村。
地名の由来は、「こま(川の曲流)・こみ(浸水地)」の転訛で、養老川が蛇行している水害に遭いやすい地と言う意味。
- 小谷田 (こやた) **【大山紙神社・妙典寺(単立仏教系)】**
江戸期は小谷田村。寛文11年(1671年)古敷谷村から分村した。現在の古敷谷字江孫(えまご)はもと当村の飛び地で、享保6年(1721年)には「衛真郷」とみある。
地名の由来は、「ふる(古)・や(谷津)・た(処)」の転訛で、崖のある湿地と言う意味。または「こや(崩壊地)た(処)」で地滑りを指したもののか。
- 権現堂 (ごんげんどう) **【八坂神社・満蔵院(真言宗豊山派)】**

江戸期は権現堂村。文禄年間以降（1592年～1596年）新生村から分村。

地名の由来は、権現は権現を祀ったことにちなむ。

● 金剛地（こんごうじ）【熊野神社・本宮寺（顕本法華宗）】

江戸期は金剛地村。地内に在る本宮寺の鐘銘には「金剛寺」とあることから、元は「寺」であったのが「地」に変化した。承平年間（931年～938年）平良兼の所領であった。

地名の由来は、康保3年（966年）慈恵大師が紀伊国熊野に参詣した際、その神が10万の金剛童子に姿を変えて現れ、この地を支持したことにちなむという説と、土気城主酒井氏が金剛地の熊野神社を土気城の鬼門除とするために、紀州の熊野神社より御神体を迎えたが、この時7歳の童子を金剛童子にしたてて迎えたことにちなむとする説などがある。地名も「金剛子」から「金剛寺」となり「金剛地」に変化したという。「ほる（古）・うと（崩壊地形）・うし（憂し）」の転訛で、地滑り崩壊地を指したものか。

【さ行】

● 西広（さいひろ）【前広神社・西広院（真言宗豊山派）】

戦国期に西広の地名があった。江戸期は西広村。本郷地区の18軒が草分けと伝えられる。

村内の前広神社は貞観10年（868年）に従五位下を授かった古社で、文久2年頃（1862年）には三島大明神と称している。

地名の由来は、「前広」が変化したものと思われ、「さき（山の前）・ひろ（広）」で、丘陵の前の広い土地があることを指したもの。

● 佐是（さぜ）【八幡神社・明性院（真言宗智山派）光福寺（曹洞宗）】

佐瀬・佐勢・佐世とも書く。平安期は佐是郷。地名の佐豆（さて）郷・佐三（さぎ）郷の遺称地と推定される。郷名は、出雲国佐世郷にいた出雲宿禰（ゆくおう）一族が当地に移住したことに由来するとも、佐瀬三郎国吉と言う人が住んでいたことから着いたとも言われている。

地名の由来は、養老川の流路が度々変遷を繰り返した堆積地に位置し、付近には沢辺の地名もあるので、「さ（狭）・せ（瀬）」で台地に挟まれた養老川の川底が浅く流の早い部分を現わしたものか。

● 椎津（しいづ）【八坂神社・稲荷神社・金剛寺（真言宗智山派）・靈光寺（信濃山真言宗）
行伝寺（顕本法華宗）・端安寺（浄土宗）】

南北朝期は椎津郷、江戸期は椎津村。慶応4年（1888年）の戊辰戦争では当村付近が戦場となり、戦死者は2名。端安寺には戊辰戦争の際、藩命に背き官軍と戦って死んだ鶴牧藩士5名の墓もある。

地名の由来は、「しい（浸食地形）・つ（港）」の転訛で、降雨による浸食地にある港という意味。

● 島田（しまだ）

江戸期は島田村。もとは内田村の一部で、元禄年間以前1688年～1704年に分村した。

ただし、江戸期を通じて内田村としても機能し、享保年間以降（1716年～1736年）は上内田村のうちでもあった。

地名の由来は、「しま（集落）・だ（処）」で、集落のある所という意味。

● 島野（しまの）【島穴神社・宝前院（真言宗豊山派）善竜寺（顕本法華宗）】

南北朝期は島穴郷、戦国期は島之郷、江戸期は島野村。

地名の由来は、島穴・馬野村2村が合併して成立したことによるが、島穴の転訛と考えられる。12代景行天皇の頃、日本武尊が東征の前から地名はあったとされ、尊がこの地に志那都比古命（しなつひこのみこと）を祀ったのが島穴神社の始まりと言う。「しま（集落）・あな（窪地）」で、窪地にある集落と言う意味。馬野は「うめ（埋）・ま（間）・の（野）」で、養老川が運んできた土砂の堆積地と台地の間にある原野と言う意味。

- 下野 (しもの)【**浅間神社・本泰寺(日蓮宗)**】
江戸期は下野村。年月は不詳ですが潤井戸村より分村。
地名の由来は、大字奈良付近が古くは上野と呼ばれ、当地はこれに対応する地名と言われているが不詳。中野という地名もある。
- 下矢田 (しもやた)【**八坂神社・善性寺(天台宗)・法園寺(日蓮宗)**】
江戸期は下矢田村。古くは矢田村ともに矢田郷を形成していたとも推定される。
地名の由来は、戦いに敗れた源頼朝が当地で再拳を凶った時に、勝利を占って矢を射たところ田の中に立った事が由来。「や(傾斜地)・た(処)」で傾斜地と言う意味。
- 十五沢 (じゅうごさわ)【**白旗神社・高澤寺(真言宗豊山派)**】
江戸期は十五沢村。文禄年間(1592年~1596年)新生村から分村した。
地名の由来は、「もち(傾斜地)さわ(沢)」の変化したもので、満月が十五日頃であることから「十五」=「もち」で傾斜地をさす。
- 宿 (しゆく)【**三嶋神社・長榮寺(天台宗)**】
江戸期は宿村。もとは内田村の一部で、元禄年間以前(1688年~1704年)に分村したが、江戸期を通じて内田村としても機能し、享年年間以後(1716年~1736年)は上内田村のうちとも見える。
地名の由来は、「すき(剥)」の転訛で崩落地の地滑り地名。
- 白塚 (しらつか)【**徳蔵院(真言宗豊山派)**】
江戸期は白塚村。天王河原村、柏原村を分村。村内には、雲雀捉飼場があり、当村は上鳥親郷であった。字塩煮塚にあった古塚は天正18年(1590年)豊臣・里見両氏の攻撃を受け戦死した椎津城主・白幡六郎を葬ったものと言われている。
地名の由来は、この塚を白塚と呼んだことにちなむ。
- 真ヶ谷 (しんがや)【**荒沢神社・太子堂寺(真言宗智山派)**】
江戸期は真が谷村。もとは内田村の一部で、元禄年間(1688年~1704年)に分村した。但し江戸期を通じては内田村としても機能し、享保年間以降(1716年~1736年)は下内田村のうちとも見える。真言宗太子堂寺があり、もと箱根権現別当源海阿闍梨の開基で源頼朝より十三仏、その他の仏具の寄進を受けたと伝わる。
地名の由来は、「しん(新)・が(接続詞)・や(傾斜地)」で、新しく出来た傾斜地、つまり崖崩れがあった事を意味する。
- 菅野 (すげの)【**大山紙神社**】
江戸期は菅野村。
地名の由来は、「すげ(削)・の(野)」で地滑りをした傾斜地。
- 諏訪 (すわ)【**諏訪神社**】
成立年代は不詳。もとは市原市村上の一部。
地名の由来は、同地に鎮座する上下諏訪神社にちなむ。
- 瀬又 (せまた)【**八幡神社・正連寺(日蓮宗)**】
奈良期のものと推定される土器の裏底墨書銘に「背俣」とみえる文字が記されている。江戸期は瀬又村。【元禄郷帳】【天保郷帳】では志藤の冠称。志藤七ヶ郷の一つ。志藤は中世の市東に由来する地名。地名の由来は、「せま(狭)・た(処)」で、丘陵の間に入り込んだ狭い谷地を指したものの。
- 惣社 (そうじゃ)【**戸隠神社・国分寺(真言宗豊山派)**】
江戸期は惣社村。平安期に諸国の国衛近傍に国内神祇を合祀した惣社が設けられたが、当地の地名も上総国

惣社が存在したことにちなむ。現在、戸隠神社が惣社を名乗るが、もと集落は同神社下の字十二所付近にあり、ある時代に台地上に移ったと伝えられる惣社も本来その付近にあった可能性があるという。上総国分寺跡もあり広大な寺域が確認されている。また、上総国府があったのではないかと推定されている。国司は182代まで来任しており、その中には「大伴家持」や「更科日記」の作者で上総国司菅原孝標（すがわらたかすえ）の娘も良く知られている。

【た行】

● 高倉（たかくら）【白山神社・高福寺（顕本法華宗）】

古くは御文倉と称したという。江戸期は高倉村。志藤七ヶ郷の一つ。

地名の由来は、天正年間（1573年～1592年）に北条氏の家臣・高田氏の倉庫があったことによると言う。「み（接続語）・たき（滝）・くら（扶）」で崩れやすい崖・急傾斜地・浸食地知う意味。

● 高田（たかだ）【日枝神社】・

江戸期は高田村。志藤七ヶ郷の一つ。元禄11年（1698年）には東村を2村として上高田村・下高田村とも称していた。

地名の由来は、北条氏の臣・高田直勝が領主として砦を構えていたことに由来する。また、文明以前（1469年～1487年）は御竹倉と称していた。「（たき（滝）・だ（処））の転訛で地滑りなどを起こしやすい要注意地名。

● 高滝（たかたき）【高滝神社】

鎌倉期は高滝郷、江戸期は加茂村。明治7年（1874年）に宮原村」と加茂村が合併して高滝村となった。

地名の由来は、当地に鎮座する高滝神社にちなむ。同社は、天武天皇元年（672年）に高滝の神号を賜ったという。「たき（滝）・たき（滾）」の転訛で、養老川が激しく流れる崖地・急傾斜地・浸食地と言う意味。過去にたびたび水害があった地でもあり、水害を鎮めるために古くから高滝神が祀られたと考えられる。

● 滝口（たきぐち）【諏訪神社・本妙寺（顕本法華宗）】

江戸期は滝ノ口村。

地名の由来は、「たき（崖）・の（接続詞）・ぐち（入口）」の転訛で崖地・急傾斜地・浸食地の入口と言う意味。または、水の溢れる所の入口と言う意味か。

● 武士（たけし）【建市神社・法泉寺（天台宗）】

建市・武子・竹子とも書く。江戸期は武士村。

地名の由来は、当地に鎮座している建市神社（現鹿島大明神）にちなむという。社は火災により遷宮しており、以前は北にある大明神山の中にあったという。建市神を祀ったのは古代氏族・高市氏（たけちし）と考えられており、当地に移住し祖霊を祀ったのが当社で、そのことから地名になったという。

「たき（滝）・し（処）」で崖地・急傾斜地・浸食地をさしたもののか、または、「滝」・し（浸食地・冠水地）」の転訛で、崖地・急傾斜地・浸食地で冠水しやすい土地をさしたもののか。

● 立野（たての）【大国主神社】・

江戸期はたちの群れ。地内に字鎌倉街道が残り旧家・切替家に源頼朝が宿泊したという伝説がある。この切替家は、明治7年頃（1874年）から村民を奨励し、宇谷（やつ）所在の山林を開墾した。

地名の由来は、「たて（台地）・の（野）」で小台地間意味。

● 田尾（たび）【八雲神社・田美神社・諏訪神社・西光寺（天台宗）龍田寺（真言宗豊山派）林祥寺（曹洞宗）】

江戸期は田尾村。地内の「じんばだい」と呼ばれる台地は、戦国期池和田城を攻めた小田原北条氏の陣跡と

も、同城に援軍としてきた大多喜城主・正木大膳の陣跡ともいう。

地名の由来は、「たふ（耐ふ）」の転訛で、崖崩れの危険地に見られる地名。

● 田淵（たぶち）【熊野神社・能満寺（真言宗豊山派）耕昌寺（曹洞宗）】

江戸期は田淵村。白尾（びゃくび）に琵琶首（びゃくび）館跡があり、天正6年（1578年）館山城主・里見義頼が里見義弘の実子・梅王丸の母と妹を琵琶首館に押し込め、兩人ともここで死んだと伝えられている。梅王丸はのちに1万石を領し満蔵寺を子の地に建てた。明治元年（1868年）の戊辰戦争に際し、望陀郡真里谷村の真如寺へ集屯した幕府軍の輜兵隊数百人が同年閏4月8日当村名主方へ押し入り翌9日には官軍役千人が久留里城下に着き、輜兵隊鎮圧のために15歳～60歳の男子を当村からも徴用している。地名の由来は、「た（段丘）・ふち（淵）」で、養老川が迂回している段丘の淵という意味か、または、「たふ（崩崖）・ち（土地）」の転訛で、崩落地という意味。

● 田淵旧日竹（たぶちきゅうひたけ）

明治15年（1882年）に田淵村の一部になった。江戸期は日竹村。

地名の由来は、「ひ（亀裂）・たき（滝）」の転訛で川で区切られた崖地・急傾斜地・浸食地という意味。

● 玉前（たまさき）【稻荷神社】

江戸期は玉前新田。宝暦9年（1759年）幕府領代官・吉田源之助が養老川河口の洲を開発して成立した新田村。はじめは見立新田と称したが、のちに玉前新田と改称。

地名の由来は、近くの海岸で「タマ（珠貝）」を採取していたことにちなむという説がある。「たむ（川の曲流部）・さき（前）」の転訛で養老川の曲流部の前に位置する事か。

● 千種（ちぐさ）

明治22年（1889年）に青柳村・松ヶ島村・今津朝山・白塚村・柏原村が合併して設立。

地名の由来は、千種の浦と言う古歌から名づけられた。

● 廿五里（ついへいじ）【若宮八幡神社・宇佐八幡神社・東泉寺・恵光院（真言宗豊山派）】

戦国期には「津比地（つひち）・江戸期には津以比地（ついひじ）、二十五里とも、露乾地（つゆひじ）とも書いた。江戸期は廿五里村。低地のため養老川洪水の災害をたびたび被ることに、三度は普通であったため、むかしは漂流常なりとの伝説があった。

地名の由来は、鎌倉から二十五里の里ほどにあったことによる伝承があるが未祥。

また、昔当地の東泉寺にあった繡仏（刺繡の仏像）が靈異を起こし、それを崇敬した源頼朝が毎月焼香の使いをよこした。その距理が25里あったという説もある。「す（洲）・ひじ（どろ地）」の転訛で、養老川の運んできた土砂の堆積地で泥湿地と言う意味か。また、地元の人「ついじ」と称しており「築地」で川の氾濫を抑えるために土手を造った事にちなむか、石が多く混じるゴリゴリした土地であったことから五里×五里＝二十五里で廿五里と変化したとも言われている。

● 月崎（つきざき）【熊野神社・永昌寺（曹洞宗）】

江戸期は月崎村。

地名の由来は、「すき（剥き）・さき（山の先端）」で地滑りなどで崩壊した土砂の先端という意味。

● 月出（つきで）【大山紙神社・東漸寺（天台宗）】

江戸期は月出村。

地名の由来は、当地の東漸地の寺伝によると行基が当地を訪れた際、夕日を受けて金色に輝く古木を見つけ、その古木から本尊の薬師如来と日光・月光菩薩像が造られたとあり、この故事から「突出」が「月出」に転訛したという。また「すき（剥き）・で（出）」の転訛で、地滑りし易い親村から分かれた子村と言う意味。

● 土宇（つちう）【玉前神社・東林寺（曹洞宗）】

鎌倉期に土宇郷があり、当時当郷は不輸租田だった。江戸期は土宇村。

地名の由来は、「つち（泥）・う（生）」で湿地と言う意味か、「つちうき」の転訛で泥の多い低湿地を指した
ものか。

● 鶴舞（つるまい）【日枝神社・鶴舞神社・西連寺（真言宗豊山派）】

明治5年（1872年）に起立。もとは石川村の一部で、桐木台と呼ばれた原野であったが、明治元年（1868年）鶴舞藩が立藩した際に陣屋として開拓された。

地名の由来は、遠州浜松から移封されてきた藩主・井上正直が「鶴が舞うたる慶祥の地」と言う意味で「鶴舞」と名づけたと言われる説と、鶴の翼を広げたような地形にちなむという説、石川村の谷間に鶴舞谷と呼ぶ池があったことにちなむ説がある。

「つる（水流）・まい（浸食地）」で川沿いの浸食地と言う意味。

● 出津（でづ）【八雲神社・神光寺（真言宗豊山派）】

江戸期は出津村。五井村の枝郷。

地名の由来は、天明年間（1781年～1789年）の大雨で養老川の流路が変わり、削られた田畑が堆積し大きな洲ができた。その洲が養老川の先にあったことから「出洲」となり、「出津」に変化した。のちに人が移り住んだという。

● 寺谷（てらやつ）【浅間神社・大宮神社・玉泉寺（真言宗智山派）】

江戸期は寺谷村。

地名の由来は、「ひら（平）・やつ（谷津）」の転訛で、土が崩れて地肌が表れている崖地、傾斜地、坂にある湿地を指したもの。

● 徳氏（とくじ）【大山紙神社】

江戸期は徳氏村。腰越村が編入。

地名の由来は、隣に柿木台があることから「徳内」の変化で、地滑りなどが無い事を願ってつけられた。

● 戸面（とずら）【日枝神社・熊野神社】

江戸期は戸面村。麻生原村から分村して出来た。

地名の由来は、「と（山の尾根）・つら（連）」で長く続く尾根を指したもの。

● 外部田（とのべた）

江戸期は外部田村。

地名の由来は、「と（山）・の（接続詞）・へた（辺処）」で、丘陵沿いの土地を意味。

● 豊成（とよなり）【八幡神社・不動院（新義真言宗）】

南北朝期豊成郷、江戸期は豊成村。不入斗より分村したというが未詳。

地名の由来は、「とよ（水路）・なり（緩傾斜地）」で水路のある緩い傾斜地と言う意味。

● 中（なか）【八幡神社・厚福寺（天台宗）】

江戸期は中村。もと皆吉村の一部で皆吉新田と称し、寛文年鑑（1661年～1673年）の養老川の開削工事により皆吉村から独立したと伝えるが、文禄3年（1594年）すでに1村としての村名が見える。

地名の由来は、以前養老川の大きな曲流に囲まれたことにちなむという。

● 中野（なかの）【白山神社・光徳寺（日蓮宗）】

江戸期は中野村。【元禄郷帳】【天保郷帳】では志藤を冠称。志藤七ヶ郷のひとつ。古くは大字奈良を上野郷と呼んだことから中野と言う名が付いたと言われている。また俗称を中村と呼んでいる。

● 永吉（ながよし）【平野神社・永久寺（日蓮宗）】

江戸期は永吉村。【元禄郷帳】【天保郷帳】では志藤七ヶ郷のひとつ。平将門は始め上総国人見山に住し、次

に菊間台に館を築いた。字ヨシノキ台が跡地と伝わっている。将門は後に長柄郡上野へ移ったので上野次郎と称す。その後の下総相馬郡に移ったという。

地名の由来は、「なが(長)・あし(崩壊地形)」の転訛で、縦に長い土地と崩れた地をさしたものの。

● 奈良 (なら)【八幡神社・本泉寺(日蓮宗)】

江戸期は奈良村。犬成村枝郷。住古上野郷と称し大椎城・平良兼の所領であった後に平忠常も住む。地名の由来は、上野郷と称されていたが、平将門が下総国相馬(現在の茨城県猿島地区)を平安京になぞえ、南ある地を奈良になぞえて改称したと伝えられている。「奈良の大仏」が鎮座するが、最初に建立した仏像は将門が建てたものだと言われています。

● 新堀 (にいほり)【八幡神社・法光寺(日蓮宗)】

南北朝期は新堀郷、江戸期は新堀村。

地名の由来は、「にいほり(新墾)」の転訛で、新開拓地を指したものの。

● 西野 (にし)【熊野神社・徳蔵寺(真言宗豊山派)】

江戸期は西野村。貞享4年(1687年)宮原村から分村して出来たとの説がある。

地名の由来は、親村である宮原村からみて西に位置することにちなむ。

● 西国吉 (にしくによし)【国吉神社・誓光寺(真言宗豊山派)・永徳寺・淵竜寺(曹洞宗)】

明治12年(1879年)に起立。同村名が存在するために西を冠称。室町期に国吉の地名があつた。江戸期は国吉村。

地名の由来は、「隣村佐是に佐瀬三郎国吉なる人住せる事あり来て村名之によりたるが如し」とあるが、未詳。「くに(くに)・ぬぎの転訛)・あし(崩壊地形)」の転訛で「くき(山頂)ぬぎ(崩壊)」で、山頂が崩れた地という意味。

● 西野谷 (にしのがや)

西谷とも書く。江戸期は西谷村。古くは郡本の一部

地名に由来は「にし(西)・の(接続詞)・や(谷津)」で親村から見て西方にある湿地と言う意味。字一ノ時志免(いちのときしめん)・一ノ泉(いちのいずみ)・加茂久(かもきゅう)・於津保久(おつぼねきう)など、古代・中世地名の残存と考えられる。

● 根田 (ねだ)【根田神社・根立寺(日蓮宗)・西光寺(浄土宗本願寺派)】

江戸期は根田村。郡本村枝村。

地名の由来は、「ね(高くなった所)・た(処)」で丘陵を指したものの。【上総国町村誌】には、平将門が当地に祇園大社建てられたという伝説を載せ「今字祇園原に小祠在り、牛頭天王と称す」と記し、その神田があったという。また上総国国分尼寺があり、尼坊跡・西門跡・大衆院跡・餞院跡・修理院跡などが確認されている。

● 能満 (のうまん)【府中日吉神社・天神社・釈蔵院(新義真言宗)】

能万とも書く。江戸期には能満村。当地は古くは志久・久保の2地区で両地を合わせて能満が成立したとする説がある。国府の旧址があり、東宿・西宿の地名が残っている。

地名の由来は、当地にある釈蔵院にある「悉能満波羅密(しくのうまんはらみつ)に由来する。マオリ語では「ノホ・マナ」で権力機構が駐在している土地と言う意味で、上総国府の置かれていた地の最有力地と言われている。地域内には「府中日吉神社」や「府中釈蔵院」(江戸期の書面に記されていた寺院名)がある。

● 野毛 (のげ)【白幡神社・法泉寺(顕本法華宗)】

室町期は「のけの村」江戸期は野毛村。

地名の由来は、「の（湿地）・け（異・消）」で、養老川の氾濫により水没する湿地と言う意味。

【は行】

● 葉木 （はぎ）【妙見神社・地藏院（新義真言宗）】

葉地（はじ）ともいう。江戸期は葉木村。

地名の由来は、「はぎ（剥ぎ）」で、川の流れにより崖が剥ぎ取られる事を指したものの。

● 畑木 （はたき）【畑木神社・医王寺（真言宗豊山派）】

江戸期は畑木村。慶応4年（1868年）の戊辰戦争（上総七日戦争）では、当村近隣は戦場と化した。当村の戦死者は5名あった。

地名の由来は、過去に氾濫した河川が運んできた土砂の畑地と言う意味。

● 原田 （はらだ）【諏訪神社・立本寺（日蓮宗）・本伝寺（単位・仏教系）】

江戸期は原田村。もと内田村の一部。元禄年間以前（1688年～1704年）に分村し、江戸期は内田村としても機能し、享保年間以降（1716年～1736年）は下内田村のうちとも思える。

地名の由来は、「はる（張）・た（処）」の転訛ど洪水時に水が張る土地と言う意味。

● 番場 （ばんば）【山王大権現】

江戸期は番場村。志藤七ヶ郷の一つ。

地名の由来は、重要な飼料の供給である草刈り場があり、江戸期にはこの草地をめぐる争いの番をする番小屋が造られた事によると言われる。

● 東国吉 （東国吉）【八幡神社・妙照寺（顕本法華宗）】

明治12年（1879年）に起立。もと国吉村。承平年間（931年～938年）平良兼の所領で、後に平忠常の采地となる。当村の南西にある同じ市原郡の国吉村と区別するために、東を冠称。江戸期は国吉村。

地名の由来は、「くに（くき・ぬぎの転訛）・あし（崩壊地形）」の転訛で「くき（山頂）ぐぎ（崩壊）」で、山頂が崩れた地と言う意味。

● 引田 （ひきだ）【諏訪神社・蓮蔵院（真言宗豊山派）】

戦国期には引田の地名はあった。江戸期は引田村。匹田村・疋田村とも書く。

地名の由来は、「ひく（低）・た（処）」の転訛で低地と言う意味。

● 櫃狭 （ひつば）【櫃狭神社・満光院（真言宗豊山派）】

江戸期は櫃葉狭村。桶狭村とも書く。里伝によれば、櫃狭間であったという。

地名の由来は、「ひび割れ）・うおば（崖）」でひび割れたような狭い谷のある崖地をさしたものの。

● 平田 （ひらた）【大宮神社・長福寺（真言宗豊山派）】

江戸期は平田村。

地名の由来は、「ひら（傾斜地）・た（処）」で傾斜地と言う意味。

● 平野 （ひらの）【大山紙神社】

江戸期は平野村。

地名の由来は、「ひら（傾斜地）・の（湿地）」で傾斜地と湿地の在る地勢を指したものの。

● 深城 （ふかしろ）【熊野神社・無量寿寺（新義真言宗）】

明治4年（1871年）に起立。もと不入斗村枝郷。源頼朝も関兵地跡と伝わる「ご覽塚」

江戸期の深城塚がる。地名の由来は、「ふけ（泓）・しろ（場所）」の転訛で湿地と言う意味。

● 福増（ふくます）【**白山神社・本年寺（日蓮宗）**】

福升とも書く。江戸期は福増村。奈良期の武士廃寺跡（推定地）などがある。

地名の由来は、「ふけ（泓）・ます（高くなった所）」の転訛で湿地の側の丘陵を指したものの。

● 藤井（ふじい）

江戸期は藤井村。万治2年（1659年）郡本村から分村した。字古光（ふるこう）・在長面（ぜいちょうめん）は、古国府・在片免の名残りと考えられる。

地名の由来は、「ふち（縁）・い（川）」の転訛で、川沿いの地という意味。

● 二日市場（ふつかいちば）【**熊野神社・八幡神社・大光院（真言宗豊山派）**】

江戸期は二日市場村。字本郷に二日市場廃寺跡がある。

地名の由来は、毎月2日に三斎市が開かれたことが由来。

● 不入（ふにゅう）【**詞具都智神社**】

江戸期は不入村。北部の大和田と久保の間の新谷永田は当村の飛び地。

地名の由来は、荘園の不入の権（田を調査する役人の立ち入りを拒む権利）を与えられた土地のこと。

● 古市場（ふるいちば）【**八坂神社・天神社・長妙寺（日蓮宗）**】

江戸期は古市場村。隣接する旧千葉郡古市場と区別するため「上古市場」またはかつて当地の領主であった千葉一門・高島氏にちなみ「高島」とも称した。

地名の由来は、かつて市場が開かれていたことにちなむ。

● 平蔵（へいぞう）【**熊野神社・大杉神社・西願寺・東陽寺（天台宗）**】

江戸期は平蔵村。明治22年（1889年）に合併し平三村（へいさんむら）となった。

地名の由来は、天慶年間（938年～947年）、紀伊からきた土橋平蔵が居城していたことが由来とする。彼は、平将門の臣であったという伝説があり、地内の平蔵城の当主は代々「土橋平蔵」を名乗った。西願寺は土橋平蔵平政常の開基と伝え、寛政年間（1789年～1801年）の火災により阿弥陀堂以外の七堂伽藍が焼失した。あるいは、平蔵は本来「ひらくら」とよみ、崖と傾斜地を指した地名か。

● 奉免（ほうめん）【**苗鹿神社・熊野神社・満蔵寺（曹洞宗）**】

江戸期は奉免村。

地名の由来は、「奉免」は官物・雑事などの賦課を免除することをいうが、第13代成務天皇の頃、菓麻国造・大鹿国直の息子・小鹿直が初めて芳芽原に住み、開墾して村を作り、芳芽村と称したということから、もとは芳芽であったと思われる。「ほ（秀）・うめ（埋）」で高くなった所が崩れて埋まった地と言う意味。

● 堀越（ほりこし）

江戸期は堀越村。もと内田村の一部。元禄年間以前（1688年～1704年）に分村した。

但し、江戸期は内田村として機能し、享保年間以降（1716年～1736年）は上内田村の内とも見える。

地名の由来は、「ほり（崩壊地形）・こし（崖・急傾斜地）」で崩れた崖地という意味。

● 本郷（ほんごう）【**天満神社・西光寺（曹洞宗）**】

江戸期は本郷村。

地名の由来は、組合11村の親村であったことによる。

【ま行】

● 町田 (まちだ) 【熊野神社】

戦国期は町田郷、江戸期は町田村。北方の一部を河原と呼び、西南の一部を中島或いは中瀬と呼ぶ。間にある水田地帯は古河と呼び、往時は養老川が流れていたため、たびたび水害を被むったという。

地名の由来は、「まち(集落)・だ(処)」で集落のある所という意味。

● 松ヶ島 (まつがしま) 【養老神社】

江戸期は松ヶ島村。天正年間(1573年~1592年)に開発された飯沼村の新田と伝えられている。天正8年(1580年)の松ヶ島始まり帳によれば、草分け百姓は9軒で出羽国・三河国・美濃国出身の浪人と飯沼村からの入植者であったという。戊辰戦争では村内が戦場となり、義軍・官軍合わせて11名の戦死者があった。

地名の由来は、「まつ(曲)・が(接続詞)・しま(土地)」で養老川の曲流部に位置し、もともとは砂洲で次第に土砂が堆積し島となったことを指したものの。

● 松崎 (まつざき) 【春日神社・神照寺(真言宗豊山派)・圓成寺(日蓮宗)】

室町期に松さきの地名はあった。江戸期は松崎村。磯ヶ谷村から分村したというが時期は未詳。

地名の由来は、「ま(間)・つ(接続詞)・ざき(山の先端)」で、谷間の山の突き出した所と言う意味。

● 万田野 (まんだの) 【天津日神社】

江戸期は万田野村。

地名の由来は、初期は曼茶野と書き、戦国期真里谷城主・武田氏の家臣が同城落城の際、字中将塚に曼茶野を捨てた事にちなむというが未詳。「また(股)・の(傾斜地)」の転訛で当地より川が二筋流れ出している事を指しているもの。

● 水沢 (みずさわ) 【八坂神社・金毘羅神社・淡州神社・日吉神社】

江戸期は水沢村。もとは内田村の一部。元禄年間以前(1688年~1704年)に分村し、江戸期は内田を冠称していた。但し、江戸期を通じて内田村として機能し、享保年間以降(1716年~1736年)は、上内田村のうちともみえる。

地名の由来は、当地付近は内田川の水源地にあたり、水の湧く沢が多いことにちなむ。

● 南岩崎 (みなみいわさき) 【養毛神社・南蔵寺(真言宗智山派)報恩寺(曹洞宗)】

昭和42年に起立。もと南総町岩崎。

地名の由来は、岩の多い丘陵の前という意味。「南」は五井地区の岩崎と区別のため。

● 皆吉 (みなよし) 【御獄神社・熊野神社・鹿島神社・観音寺(真言宗智山派)
吉祥寺・橘禅寺(曹洞宗)・妙蔵寺(日蓮宗)】

鎌倉期は、皆吉郷。【吾妻鏡】仁治2年(1241年7月26日条)に鎌倉幕府に仕えた陰陽師・文元朝臣が当郷を知行している。江戸期は皆吉村。皆谷村とも呼ばれた。枝郷に山田久保村があり、後に分村。中村は当村の一部で皆吉新田と称し、寛文年間(1661年~1673年)に当村から独立したとも伝えられるが、文禄3年(1594年)にはすでに村名が見え1村として独立していた。

地名の由来は、「み(水)・な(接続詞)・あし(崩壊地形)」の転訛で、川沿いの崖地と言う意味

● 宮原 (みやはら) 【大国主神社・明照院(真言宗豊山派)】

江戸期は宮原村。枝郷として西野村。古河公方7代源政氏の4男義舜は、この地に隠棲、宮原御所と 呼ば

れたが、死後侍臣がその地に一字の堂を開き、御所山薬王寺明照院として残る。

地名の由来は、「みや（御屋）・ばら（原）」で、神社のある原野と言う意味。

● 妙香（みょうこう）【大宮神社・龍本寺（曹洞宗）】

江戸期は妙香村。南隣の大字奉免字明王台（みょうこうだい）に苗鹿（みょうか）神社があり、当地名との関連が推定されるが未詳。当地には、菓麻国造・大鹿国直とその息子の小鹿直の墓と伝えられている塚があることから「みょうこう」は「みょうか」の転訛で、古代の国造一族に関係する地名か。「みょうが（冥加）」の転訛で、崖崩れなどの危険と隣り合わせの地という意味か。または「みお（濤）・か（処）」で湖沼のある地と言う意味か

● 迎田（むかえだ）【大宮神社】

明治4年（1871年）に起立。向田村とも書く。江戸期には不入斗村の枝郷だったが明治4年に分村。地名の由来は、「むけ（剥）・た（処）」の転訛で崩壊地形を指す。

● 村上（むらかみ）【白幡神社・観音寺（真言宗豊山派）・永昌寺（曹洞宗）】

上総国府推定地のひとつ。戦国期に村上の地名があった。江戸期は村上村。地内には大永年間（1521年～1528年）に村上大蔵大輔義芳が居たという村上城があった。慶応4年（1868年）の戊辰戦争の際には観音寺に幕府軍100人が立て籠もり官軍に應戦したが敗走した。同寺は官軍に放火された。地名の由来は、「もり（盛）・かみ（上）」の転訛で、高くなった所と言う意味

● 門前（もんぜん）【寶積寺（曹洞宗）】

江戸期は門前村。万治2年（659年）郡本村から分村した。人市場村ともいう。一時郡本村の一部に復し、明治元年（1686年）再び分村したという説もある。字一ノ泉町（いちいずみまち）・二ノ泉町（にのいずみまち）・三ノ町（さんのまち）は条里制の遺称、字梶給（かじきゅう）・於局給（おつぼねきゅう）は中世の給田の遺称と推定される。また字古甲（ふるこう）は古国府の意味とも考えられる。地名の由来は、宝積寺（ほうしゃくじ）の門前に立地することによる。

【や行】

● 矢田（やた）【矢田神社・熊野神社】

鎌倉期は矢田郷、江戸期は矢田村。古くは下矢田村とともに矢田郷を形成していたと推定されている。南北朝期～室町期には鑄物生産が盛んとなり、多数の大工を出している。地名の由来は、戦いに敗れた源頼朝が当地で再挙を図った時に、勝利を祈って矢を射た所、田の中に立ったことに由来する。また「やた（弱点・欠点）」で地滑りがあった事を指すものか。

● 柳川（やながわ）【大山紙神社】

江戸期は柳川村。大久保村枝郷。地名の由来は、川端に接し、往時柳の木がたくさんあったことにちなむ。「やな（斜面）・かわ（川）」で、斜面の側の川と言う意味。

● 柳原（やなぎはら）【大鷲神社】

江戸期は柳原村。もとは小折村と一村だった。地名の由来は「や（斜面）・なぎ（薙ぎ払う）・はら（原野）」で、河岸が浸食される所の原野と言う意味。

● 藪（やぶ）【八幡神社・常德寺・宗円寺・龍福寺（天台宗）・大泉寺（曹洞宗）】

江戸期は藪村。養父ともかいた。往時大館氏17代末孫定重が、源頼朝に攻められ治安元年（1021年）に落城、天禄3年（972年）頼光が上総太守に任ぜられ下向し当地の幸田に住んだという。源頼光が天延3年（975年）に建立した八幡神社があり、もとは皆吉村の神社であったという。

地名の由来は、「やぶ(破)」で、崩壊地を指したものの。

● 山木 (やまき)【白幡神社・常德院(新義真言宗)・妙榮寺(日蓮宗)】

江戸期は山木村。字城ノ内には文明年間(1469年~1487年)市原備前守が拠ったという白船城跡がある。地名の由来は、「や(谷津)・まき(曲)」で、山裾の曲がった所にある湿地という意味。

● 山口 (やまぐち)【八坂神社・放光寺(天台宗)】

江戸期は山口村。

地名の由来は、三重山の入口の意ともいうが、「やまふち(山縁)」の転訛で、山裾の地という意味。

● 山倉 (やまくら)【春日神社・円楽寺(天台宗)・仙蔵寺(真言宗豊山派)】

江戸期は山倉村。

地名の由来は、山田橋が山田郷の端であると考えられることから、「やまだ(山田郷)・くら(崖)」で、山田郷の崖地と言う意味か。

● 山小川 (やまこがわ)【熊野神社・長泉寺(曹洞宗)】

江戸期は山小川村。

地名の由来は、「やま(山)・接続詞・川(川)」で、養老川支流の平蔵川に小草畑川が流入する付近に位置する地形を指したものの。

● 山田 (やまだ)【山田神社・正覚院(真言宗豊山派)・佛蔵寺(日蓮宗)】

平安期は山田郷、「夜万多」とも書く。江戸期は山田村。

地名の由来は、「山田」は山のある所という意味。

● 山田橋 (やまだばし)【稻荷神社・中和院(真言宗山階派)・養福寺(曹洞宗)】

江戸期は山田橋村。山田郷とも。奈良~平安期の官営跡あるいは、祭祀遺跡と推定される稲荷台遺跡、国分尼寺跡などがあるが、その多くは国分寺台土地区画整理事業などにより消滅。

地名の由来は、やまだ(山処)・はし(端)」で山田郷の端という意味。

● 八幡 (やはた)【飯香岡八幡宮・満徳寺(真言宗豊山派)・無量寺・称念寺(浄土宗)
妙長寺・圓頓寺(日蓮宗)】

戦国期は幡郷、江戸期は八幡村。古くは現在地の東方に位置し、石塚村と称したが、移転して旧地を古屋敷と称したと伝えられる。

地名の由来は、飯香岡八幡宮に由来。同宮も元石塚に祀られていたが、のち御影山の地に遷されたという。慶応4年(1868年)の戊辰戦争の際には市川・船橋方面から敗走してきた幕府軍が当地に集結した官軍と南新田で交戦、幕府軍は敗れて五所方面に逃走した。

● 養老 (ようろう)【八坂神社・長泉寺(曹洞宗)】

明治8年(1875年)に起立。北崎村・小佐貫村が合併して成立。

地名の由来は、養老川が地内を囲むように流れていることにちなむとも、神代より一千年を経た「養老の松」と呼ばれていた古松があった事にちなむとも言われる。

● 米沢 (よねざわ)【

明治元年(1868年)に起立。鶴舞藩の立藩に伴い藩領に編入されるに際し、真福寺村・腰巻村・大西村が合併して成立した。

● 米原 (よねはら)【山神社・大通寺(曹洞宗)】

江戸期は米原村。上組・下組の2集落からなっていて、上組を狭義の米原村、下組を上畑村との称したが、上畑村は米畑村からの独立を主張し、しばしば争論となった。山神社及び大通寺縁起によれば、応永7年(1400年)の創立と言う。

地名の由来は、昔当地にいた大通寺二代禪師・梵那仙人が寺領の水田で通常の倍もある大粒の米を作ったこ